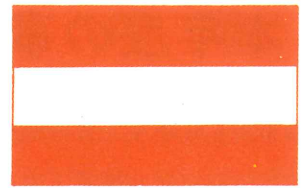


飛 騰

平成6年5月
第9号



海援隊旗

人間関係の入口

館長 小 椋 克 己

早いもので、年度初めと言う「組織の年越し」を三度経験することができました。忘れてならないのは、温かいおもてなしの心。お陰様で、お叱りよりも励ましやねぎらいのお声を下さる方が多く一同感謝しております。

また、いま「坂本龍馬を五万円札の肖像にする運動」の署名用紙を置いて協力していますが、それに記された住所を集計してみますと、高知県のトップは当然としても、大阪府がなんと高知市とほぼ同数で二位、東京、神奈川、岡山、香川など、飛行機や鉄道、道路の便利なところがこれに次ぎ、北海道から沖縄まで全府県から来て下さっており、県外の方が全体の約8割で、この館の情報発信に大きな役割を果たして下さっていることが分かりました。

ところで、今年2月、新任の高知県警察本部

長、末綱 隆さんから着任のご挨拶状を頂きました。印刷された本文の横に「一度、警察庁地域課長の時にご案内して頂きました。その節は……」と、書き添えて下さっていました。新聞の記者会見でも龍馬に触れておられたので「あああの時の龍馬に詳しい方」と思い出し、忘れずお便りを下さったことに感激しました。

また、昨年秋、石油会社日本エナジーの長島一成社長がご来館、非常に熱心にご覧になり、説明を聞いて下さいました。ところが会社の新年の訓示や、母校の校友会誌への寄稿の中で、当館について触れ「龍馬スピリット」を説かれたということ、わざわざ同社の瓜生高松支店長が知らせに来て下さいました。ありがたいことです。

「龍馬への入口」が私どものキャッチフレーズですが、龍馬のような「豊かな人間関係を作る入口」でもありたいと思います。初心を忘れず努力することは勿論ですが、そのための組織作りも今年度の課題です。ご支援下さい。



▲ 当館屋上より改築工事中の国民宿舎「桂浜荘」を望む（平成7年2月オープン予定）

本年度の事業計画

本年度も昨年度とほぼ同様の事業を行い、その内容はいっそう創意工夫に努めたい。

1. 企画展の開催

① 夏の企画展「長崎版画」展

期間 平成6年8月1日 — 8月31日

当館には永見徳太郎編輯「長崎版画集」（発行大正15年9月）、「続長崎版画集」と長崎版画「阿蘭陀船図」が所蔵されている。

長崎版画は、江戸の浮世絵に見られるような華麗さには乏しいが、長崎居住のオランダ人、中国人、その他の外国人の風俗や年中行事等を画材にしている。当時、長崎を訪れる旅人の土産用として、盛んに刷られたようだ。

この企画展では、これらの版画とその解説を中心として、長崎版画を生んだ当時の長崎の様子や、龍馬率いる海援隊（亀山社中）にも触れたいと思っている。

② 秋の企画展「龍馬暗殺」展

期間 平成6年10月30日 — 11月30日

このテーマは龍馬研究者や龍馬ファンにとって最も関心の深いものであり、ジャーナリズムもよく取り上げているものである。

龍馬暗殺については、実行犯が見廻り組、その黒幕（指示者）が会津というのが通説になっているが、そのいずれにも異説がある。また、刺客の標的は中岡慎太郎で、坂本龍馬は巻き添えだという説もある。

事件後約130年経過した現在、未だに深い謎に包まれたままである。

この企画展ではそうした諸々の説を整理し、若干絞り込んで紹介したいと考えている。

③ 春の企画展「坂本龍馬と福井藩」

期間 平成7年3月19日 — 5月5日

坂本龍馬と越前福井藩は、龍馬の死の直前まで深いつながりがあった。

勝海舟の命によって福井を訪れ、藩主松平春嶽公に謁見して、神戸海軍操練所建設費の不足5,000両を借用したこと、新政府の財政策について、福井藩士三岡八郎（後の由利公正）に諮問したこと、福井の脱藩浪人関義臣が海援隊に入ったことなど、興味深い話題がある。

公武合体派の福井藩にとって、龍馬の主張に共鳴するところが多く、彼の活動に期待するところが大きかったのではなからうか。

この企画展では、龍馬と松平春嶽はじめ福井藩士との交流、幕末期における福井藩の活動等を取り上げたい。

当館の企画展の特色は、1つのパネルに5、6点の資料を収めた自作パネル16枚を展示していることである。

また企画展開催中の地下2階資料展示室の展示については、常設の展示資料（例・血痕のついた屏風）の外、企画展のテーマに副うた資料を展示したい。

2. 館だより「飛騰」の発行

昨年同様、年4回発行する。

発行月 第9号 平成6年5月

第10号 〃 8月

第11号 〃 10月

第12号 7年2月

型式 B5版 8ページ

印刷部数 3,000部

昨年度までは2,000部印刷していたが、お客様の要望もあり、1,000部増して3,000部とした。

内容の充実という点では、10—12号で紹介する企画展の内容と関連づけ、関係の深い土地の研究者の論文を2頁にわたって掲載することである。

(号) (仮題) (執筆者)

10号 「幕末の長崎情勢」 長崎在住の方

11号 「龍馬暗殺」 京都在住の方

12号 「幕末の福井藩」 福井在住の方

頒布先については一定の基準を設け、その基準に合う個人や団体には、従来通り無料でお送りし、他の方には郵送料を負担していただきたいと思っている。

3. 資料の充実を図る

書簡等の複製（レプリカ）の作製、軸物の修繕、資料の購入等を考えている。

4. 図書の購入

—略—

パソコン通信「あったかネット」の

データベース充実についてのお知らせ

これまで「あったかネット」の利用については、会員相互の運用が中心で、情報資料の引き出しはFAXによる画像情報が大多数であった。

この度、高知県観光情報センターが平成5年度末「データベースの画像情報の更新と追加」の登録準備を整え、ホストコンピュータへの入力を完了した。追加情報資料の中には、文書情報も多くあり、より多くの方々にご利用頂けるようになった。ゲストID《ATK 9996～9999》で入れるので、是非覗いてみて頂きたい。なおゲストはデータベースの文書情報のみが利用できる。

また、この号の中には、関連記事があるのでその方もあわせてご覧頂きたい。

平成5年度

入館者数

4月 13,376人 10月 12,192人

5月 19,702人 11月 12,086人

6月 9,357人 12月 4,271人

7月 11,586人 1月 7,582人

8月 27,960人 2月 7,274人

9月 9,914人 3月 14,923人

計 149,623人

(昨年度比 256人増)

入館者の現住所都道府県別傾向

「坂本龍馬を5万円札の肖像にする会」が名古屋に生まれ、熱心に署名活動をしている。当館でもこれに協力して、署名用紙を置いて来館者にご協力いただいている。

2月12日、2月20日、2月28日、3月12日、4月8日の5日間の記入者を集計すると、次のようになり、これで当館入館者の傾向がわかる。

① 県内 1,584人(19%) 県外 6,627人(81%)

② 上位10都府県

高知、大阪、東京、兵庫、岡山、広島、神奈川、香川、愛知、愛媛、(100人以上)

③ 下位11県

秋田、青森、沖縄、岩手、宮城、山形、福井、福島、鹿児島、山梨、和歌山

——・—— 入館状況 ——・——

平成6・5・5 現在（開館以来912日）

○総入館者数 380,024人

○最多入館 平成5・5・3 3,700人

○最少入館 〃 5・1・11 49人

○本年度最多入館 〃 6・5・3 1,989人

○本年度最少入館 〃 6・4・12 83人

○本年度1日平均入館者数 493人

浦戸城址

学芸専門員 下元正清

1. はじめに

坂本龍馬記念館の建つこの地は、ここからの眺めが素晴らしいというだけでなく、破乱に富んだ歴史を持つ所でもある。

当館屋上からの眺めは、雄大かつ美しく、見飽きることがない。北は複雑に入り込み、波静かな浦戸湾、その湾奥には高知市の市街地が見えその背後に急峻な四国山地が、外敵の進入を拒む壁のようにそびえ立っている。東西は遙か彼方まで海岸線が延び、南は黒潮おどる紺碧の太平洋が、果てしなく広がる。まさに空と海と地が凝縮して、一点に集中した所がここではあるまいか。

こうした景色を眺めていると、あたかも自分が土佐一国の主になったような錯覚を覚える。

2. 紀貫之の「土佐日記」

浦戸の地名が初めて出てくる文献は、歌人として有名な紀貫之の「土佐日記」である。

土佐国の国司であった紀貫之は、4年の任期を終えて京の都へ帰ることになった。この旅の様子を、あたかも女性の作のように見せかけて綴ったもので、我が国最初の紀行文学といわれている。

承平4年(934)12月21日、国府の館を出発して大津の港に向かう。27日の条に「大津より浦戸をさして漕ぎ出づ」とあり、28日の条に「浦戸より漕ぎいで大湊をおふ」とある。

27日の夜は、見送りの人々と別離の宴を催すとともに、これからの長い船旅や知友の多い京の都に、思いをはせたことだろう。

浦戸は平安時代から開けた港町で、海上交通

の要地であった。

ちなみに浦戸の地名であるが、「浦」は海辺の意で、「戸」は出入口、玄関の意である。つまり大きな湾の出入口に位置するところからこの地名が生まれ、その後浦戸湾という名前がつけられたのではなかろうか。

3. 長宗我部氏の居城—10年間—

時代は下り、天正13年(1585)1月に四国の覇者となった長宗我部元親は、同年8月阿波国白地で豊臣秀吉の軍と戦って敗れ、天下人への望みは打ち砕かれた。

元親は秀吉から土佐一国の領有を許されたことに感動し、その後秀吉の九州征討や関東の北条氏征討や、二度にわたる朝鮮出兵にも出陣するなど忠誠に励んだ。

こうした出陣の折り、元親は長浜の若宮八幡宮に参詣して戦勝祈願をし、浦戸の港から歓呼の声に送られて出て行った。

天正16年(1588)、元親は居城を岡豊(南国市)から大高坂(現在高知城のある所)に移す計画を立てたが、大高坂周辺が低湿で、大雨の時は鏡川、久万川等の河川がすぐ氾濫するため、城下町の建設が極めて困難であった。そこで止むを得ずこの計画を断念し、浦戸のこの地に築城することになった。



▲ 種崎より浦戸城址を望む。

ここは小高い山上にあり、しかも浦戸湾口を扼した天然の要害で、水軍の育成強化という面からもうってつけの場所である。

築城及び城下町の建設は順調に進捗し、天正19年(1591)、元親は大勢の家臣を従えて、威風堂々この新城に入城した。

城下町としては、現在の浦戸地区の外に、狭い水道を隔てた対岸の種崎も含まれた。種崎は仁井田から長く西に延びた砂嘴に形成された町であり、浦戸は平地の少ない地域である。

長宗我部氏の居城が岡豊にあった時代は、家臣は給地を家の近くに持ち、平時はそれを耕作して食糧を得、一旦緩急あらば直ちに城へ駆けつけた(一領具足)が、浦戸城へ移ってからは給地も遠くなり、兵農分離が徐々に進んだものと思われる。また城下町といっても、後の高知廓中のように整然としたものではなく、在来の町の中に侍屋敷が入って来たという混住であっただろう。

元親は慶長4年(1599)京都で病死。嗣子の信親は先の九州征討の時の戸次川の合戦で戦死したため、弟の盛親が家督を継いだ。

元親の墓は浦戸に近い横田野にあり、また信親は長浜の雪溪寺でまつられている。

豊臣秀吉の没後、慶長5年(1600)の「関ヶ原の合戦」では、盛親は西軍に組して敗れたため、徳川氏によって領国を没収され、四国の雄として栄華を誇った長宗我部氏は滅亡した。

4. 山内氏の入国 居城—2年半—



長宗我部氏に代わって、山内一豊が慶長6年(1601)に遠州掛川から入国する。

一豊の入国に先立ち、井伊直政の命を受けた鈴木平兵衛による浦戸城接管が行われたが、この時長宗我部氏の旧家臣(一領具足)による激しい抵抗があった(浦戸一揆)。

この時捕えられた者は首を刎ねられ、その首は塩づけにして家康のもとに送られたという。花街道沿いにある六体地蔵は、彼等をとむらったものである。

入国を果たした一豊は、百々越前を奉行に任命し、直ちに大高城に築城を開始した。そして本丸が完成した慶長8年(1603)8月21日、一豊は浦戸城から大高坂の新城へ行った。

この時家臣も一豊に随って高知廓中へ移ったため、それ以後浦戸や種崎は城下町としての機能、形態を失うことになる。

したがってこの地は、12年半にわたって土佐国の政治の中心地として栄えた所といえよう。

5. 坂本龍馬とのかかわり

種崎には大廻りの回船問屋川島家、中城家があった。龍馬の父八平直足は龍馬13歳の時、当時川島家の寡婦であった伊与を後妻に迎える。また中城家の主は、八平と歌を通して親交があった。慶応3年(1867)9月、龍馬は洋銃千挺を携え、芸州船震天丸で最後の帰郷をする。この時船は浦戸に入港し、対岸の種崎に上陸して中城家へ入っている。

坂本龍馬記念館や国民宿舎「桂浜荘」が、旧浦戸城の詰の段(本丸)に建てられていることを龍馬が知ったら、世界の海援隊を作りそこねたと苦笑するにちがいない。

パソコン通信へのお誘い

学芸専門員 岡 林 春 雄

1. パソコン通信を始めるために パソコン通信というと、何だか面倒な、難しいことのように考えがちですが、大袈裟な装置は必要なく、いつも使っているパソコンかワープロと、電話回線、それにモデム(変復調装置というパソコンと電話線をつなぐ装置)及び通信用のソフトウェアがあれば準備は完了です。モデムは、できれば2400 bps 全二重の機種をご用意下さい。

パソコン通信のセンターには、ホストコンピュータがおかれており、私たち利用者はこのコンピュータに接続して、電子メールのやり取りをしたり、電子掲示板(BBS)に書き込みをしたり、或いはデータベースから種々な情報を引き出して読んだりします。

これは自宅のパソコンから電話回線を通して、センターのホストコンピュータにアクセスし、情報を引き出す操作を必要とします。なお、大規模商用パソコン通信サービスでは、欲しい情報のうち一部有料のものがあります。したがって、この場合は電話料金と情報料金が必要となります。

2. ネットワークに加入する 装置が整ったら、次にネットワークに加入します。前掲「あったかネット」は、あったか高知観光情報ネットワークの略称で、高知県の観光事業に関連する企業、市町村等を会員とするもので、年会費制になっております。

一般的には、草の根ネットと呼ばれる利用料金無料のネットワークも数多くありますが、パソコン通信から得られる情報を、それぞれのビジネスに利用したいと思えば、大規模商用ネットワークに加入するとよいでしょう。これらは、

ネットワークのホストコンピュータへ接続できる入り口、つまりアクセスポイントが全国各地にありますので、そのポイントまでの電話料金でつながりますので料金を安くあげることができます。

3. 「あったかネット」につないでみよう

「あったかネット」はゲストIDでも利用できますので、早速アクセスしてみましょう。

アクセスポイントへは、0888-21-0323~0326で入れます。モデムが「ピッポーッ、ガーッ」となったら、アクセスポイントと接続された合図です。

画面は、log in(ゲストatk9996~9999):と表示されるので、atk9996とキーボードから打ち込むと

atk9996
GUESTWelcome to HICOM-PC
Copyright (C) Hitachi, Information Network, Ltd. All rights reserved.
ご利用ありがとうございます。

この「あったかネット」は、高知県内の各地から直接入力された新鮮な観光情報が掲載されている(あったか観光情報<BBS>)と、県内の観光に関するあらゆる情報が検索できる(観光百科辞典<データベース>)、特定会員にメールを送信する(電子メールサービス)の3つのサービスを行っています。(会員以外の方は、データベースの画像情報(FAXサービス)とユーティリティは、御利用になれません)

あったかインフォメーション
観光百科辞典に文字情報が追加され会員以外の方も御覧いただけるようになりました。
あったか観光情報のゲストボード及び龍馬フォーラムにはゲストの方の書き込みが可能ですので、お気軽に情報・御意見をお寄せ下さい。

現在、下記のモードになっています。

メニュー表示 : 基本モード

掲示板メッセージ表示 : 登録順モード

Last Access Time 94/04/10 15:36:44

★あったかネットをはじめ御覧になる方へ★
使用方法がわからなくなった時は、H(ヘルプ)を入力しリターン(実行)キーを押して下さい。ヘルプメッセージが表示されます。

●番号かコマンドを入力しリターン(実行)キーを押して下さい●
1. 電子メール (M) ail 4. ユティリティ (U) til
2. あったか観光情報<BBS> (P) ost 5. あったかネット終了 (O) ff
3. 観光百科辞典<データベース> (D) b

と表示されますので、必要な情報の番号又は()の中のアルファベットを打ち込み、目的の情報がある所まで入って行って下さい。因に龍馬フォーラムは、2 あったか観光情報《BBS》の中にあります。又、3 観光百科辞典《データベース》の中の8 歴史・伝統・文化財情報の中の2 坂本龍馬の中に坂本龍馬に関する多くの文書情報がありますので、引き出してご覧下さい。

以上、走り走りでデータベースまでたどり着きましたが、その他の観光情報の中にも高知県全域にわたるイベントや各種施設・宿泊情報等も盛り込まれておりますので、時々覗いて見てご利用下さることを願っております。

副館長就任のご挨拶

坂本龍馬記念館 副館長 池 上 毅

4月1日から坂本龍馬記念館で勤めさせていただきますことになりました。よろしくお願いいたします。この10数年、この種いわゆる文化施設が全国的に数多く設けられているようですが、これは、我々の余暇活動の高まりから生まれたものでしょうか。そして、これら施設についてよく言われていますことが、箱はできたが中身・運営が今一つということでもあります。

当館は県立の施設として、県教育委員会から管理運営を委ねられているものですが、大きな指針は県当局のご教示を頂くとしても、展示を企画し、あるいは資料を整備すること等々の具体の活動は私共館職員の所掌であり、これには、

新しい資料や図書の紹介

○ 血痕のついた貼交屏風(複製)

京都国立博物館のご好意により、高知県北川村の中岡慎太郎館とともに、標記の屏風の複製を作製した。

この屏風は、慶応3年11月15日、京都近江屋で面談中の坂本龍馬と中岡慎太郎に、複数の刺客が突然襲いかかり、龍馬は即死、慎太郎は重傷を負った(17日絶命)。

この時、この部屋にあった狩野探幽の富嶽図や赤穂浪士間十次郎書簡等19点の貼交屏風に、血が飛び散った。左下の「猫と牡丹」図に、53点の血痕が残っている。

この貼交屏風の真物は、近江屋5代目井口新助より、昭和15年7月恩賜京都博物館(現京都国立博物館)に寄贈された。

県教育委員会をはじめ、運営審議会の先生方、また、龍馬に格別の思いをもたれている多勢の方々の御指導・御援助もいただき、中身のいっそうの充実に努めなければなりません。

県立の施設とは言え、当館のなりたちには格別の経緯がございます。建設費の8割が県内外からの多くの方々の寄附で賄われていることを知り、驚きと共に我が土佐もいよいよ成熟した先進国並みになったのかと独り合点をしているところがございます。これも、龍馬の新進の気概を汲む県民性の発露の一端と見るのは的はずれでしょうか。ともあれ、観光地桂浜に在って、県内外から多くの方々に心安んじて、楽しく観覧していただく施設として、また、時には学び集う場として気楽に利用していただけますよう努めたいと思っておりますので、関係の皆様方の御指導をよろしくお願いいたします。



当館では4月1日より、地下2階資料展示室のケースに、「血痕のついた掛軸」と並んで展示され、来館者の注目を浴びている。

○ 「人物探訪・日本の歴史」

全20巻 暁教育図書

寄贈 高知市 長崎浪男氏

○ 「幕末維新人名事典」 購入

新人物往来社

○ 「日本『日記』総覧」 購入

新人物往来社



拜啓 龍馬殿

- 今日はあなたに私の一人息子の竜馬を、約束通り見せるために連れて来ました。

まだ1歳なので本人は何も分かりませんが、今度又本人が理解する年頃になったら、ゆっくり会いに来ます。

(2月5日 愛知県 H・S 男性)

- 高校生の頃、はじめて「龍馬がゆく」を読み、あなたに心酔することになってしまいました。大学を卒業するにあたり、はじめて土佐の地を訪れ、感無量であります。

桂浜の砂を踏んだ時、あなたが月夜の晩に同志と酒を飲みながら、「よさこい節」を歌っている姿が目に見えようでした。

私もこれから社会に出る身として、心身ともひきしまる思いですが、あなたをひとつの目標として、また心の支えとして頑張りたいと思います。

それでは、またいずれこの地に参ります。

(2月10日 神奈川県 W・T 男性)

- はじめて飛行機にのって、はじめて四国の地をふんで、はじめて高知に来ました。もちろん理由は龍馬の故郷を見たかったからです。

特にここ桂浜は龍馬に関するものがたくさんあって、うれしい限りです。記念館で龍馬の人生にあらためてふれて、龍馬に会えたような気になりました。

(3月15日 茨城県 K・A 女性)

- 日本国はこう行きたい!

内閣総理大臣 徳川慶喜

副総理兼外務大臣 河井継之助

大蔵大臣 由利公正、同事務次官 大久保利通

通産大臣 坂本竜馬

陸軍大臣 西郷隆盛、同事務次官 土方歳三

海軍大臣 勝 海舟、同事務次官 秋山真之

文部大臣 長岡謙吉

防衛庁長官 大村益次郎

官房長官 中岡慎太郎

総務庁長官 島津斉彬

(3月16日 千葉県 I・H 男性)

- 神奈川からやって来ました。

失恋という寂しさからの一人旅、龍馬の力強い生き方を垣間見て、強く生きねばならないと励まされた気がしました。

来て、とっても良かったです。

なんだか勇気が出て来ました。

(4月2日 神奈川県 I・A 男性)

題字「飛騰」について

文久元年(1861)10月11日、龍馬は剣術修行のため、1か月の国暇を得て、讃岐丸亀の矢野市之丞の道場へ旅立った。この日、樋口真吉は、日記に「坂龍飛騰」と記した。

龍馬は更に国暇延長の許可をもらい、極秘裡に長州へ赴いた。彼は武市半平太の久坂玄瑞宛親書を携えていたのである。

長州萩に着いた龍馬は、久坂玄瑞を訪れて半平太の親書を手渡し、国事について会談する。

今まで一介の武芸者に過ぎなかった龍馬が、この旅を機に勤王の志士へと脱皮していくのである。矢野市之丞の所へ行った目的を予め知っていた樋口真吉は、龍馬への期待をこめて「坂龍飛騰」と記したのであろう。翌2年3月、龍馬は脱藩する。(下元書)

館だより “飛騰” 第9号

平成5年(1994)5月5日発行

発行所 高知県立坂本龍馬記念館

〒781-02 高知市浦戸城山830

Tel (0888) 41-0001